

先端美術

「コロナ散密 私の秘密」

中尾 敏幸(高知市)



さびた缶の中には…



なかお・としゆき 1951年室戸市生まれ。褒状2回、初特選。

美術館の外庭。遠くからは一見、さびたドラム缶が四つ置かれてあるだけに見える。

新型コロナウイルス

で「みんなが閉じ込められちゆう感じ」を缶に投影。雨風など変化にさらされる屋外に置

き、コロナに翻弄される現代社会を表した。

だが外観とは逆に、

中をのぞくとカラフル。廃棄物や石などを

使い、自身の内面を象徴したものを見た。

この状況下で、どう

喜びや楽しみを見つけ

るか。見た人が何か感

じてくれたら」。のぞき

回もかかったのはペン

「今

うふうな気持ちでや

らないと中が見えない

高さにこだわり、フォ

ークリフトに載せて高

さを試行錯誤した。

12年前から続ける県

展出品は「ストレス発

散」。土木会社を経営

刺も辛口ばかりにし

てしようたら面白くな

い。ええじゃないか、と

ってます」と笑った。

「徳澄裕子」

廃車を電柱で「串刺

しにするなど、ユー

モアが効いた作品で入

選を重ねる。「自分も人

も楽しませたいから、

こんなことしゆう。風

刺も辛口ばかりにし

てしようたら面白くな

い。ええじゃないか、と

ってます」と笑った。

「徳澄裕子」

「徳澄裕子」